

令和元年度第 2 回屋久島世界遺産地域科学委員会 ヤクシカ・ワーキンググループ
及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議について（報告）

1 開催月日等

令和 2 年 2 月 15 日(土) 14:00~17:00 宝山ホール（鹿児島県文化センター）

2 議事

- (1) ヤクシカの生息状況等について
- (2) 令和元年度及び令和 2 年度の取組について
- (3) 森林生態系の管理目標について

3 主な発言

- (1) ヤクシカの生息状況等について
 - ・多くの地域で H 2 9 年度に一旦減少したものの H 3 0 年度に増加、R 元年度に減少に転じるという分析結果となっていることについて、H 2 9 年度については自然条件の影響が大きいと考えられ、それ以降、本当に減少したのかどうかは、今後の推移を見ながら慎重に判断をするべきである。
 - ・西部地域について糞粒調査で減少傾向にある結果が示されていることについては、現地を歩いて感じている印象と合致している。
 - ・大川林道の奥地で捕獲数が増加している現象は、捕獲されていないところでホットスポットができているとも推測される。このような場所については、地元委員や猟友会からの情報収集が必要となる。
 - ・伐採後の植林地がシカの採餌地となり被害拡大の可能性があることについても留意し、森林組合や林野庁等と連携しながら対応することが望まれる。
- (2) 令和元年度及び令和 2 年度の取組について
 - ・西部地域の目指すべき森林生態系とヤクシカ対策をテーマとした意見交換会のアンケート結果が示されているが、意見交換会の中身についての記載がないため、この意見交換会がガス抜きとの印象を与えかねない（→意見交換会にフィードバックする予定である）。
 - ・上記意見交換会は実質的に価値観を問うものであり、意見を集約するには無理がある。我々は既に森林生態系管理の目標を設定したところであり、西部地域を含めこの目標の達成に向けた議論をすべきである。
- (3) 森林生態系管理目標について
 - ・昨年度設定した 4 つの管理目標の達成状況を把握するための指標及びその把握方法について、前回会議のアドバイスやその後の現地調査の結果を踏まえ、よく再整理されている。

- ・報告では「回復には至っていない」とあったが、改善方向にあるのか、そうでないのかが明確でない。表現上のことかもしれないが、今後重点的に取り組むべきことが変わるほどの大きな評価であるため、この点を正確に整理すべきである。
- ・種数が回復している箇所はあるが、絶滅危惧種や希少種はシカに摂食されており、種数だけでなく管理目標（３）ヤクシカの嗜好性植物種の更新、（４）絶滅のおそれのある固有植物種等の保全も併せて評価することが重要である。
- ・希少種及び絶滅危惧種の保護という観点からは、現状の対策（保護区画の設置数）は十分ではない。